

# 清月記 SPECIAL対談 島貫 敦子さんが語る「女性の生き方」

第17回

創業124年(明治25年)の仙台の老舗、(株)こけしのしまぬきの取締役副社長として、夫婦ともに経営に携わる島貫さん。「子育ても仕事もあまり抱えないで、」と語る。



島貫 敦子さん  
しまぬき・あつこ

1959年宮城県仙台市青葉区一番町に、父秀夫氏と母節子さんの長女として生まれる。東二番丁小学校から五橋中学校、宮城一女高に進む。宮城学院女子大学英文科卒業後、(株)こけしのしまぬきに入社、監査役に就任。  
●1979年、昭彦氏(現社長)と結婚。長男の裕史さん(現専務)、長女奈緒子さん2人の子どもに恵まれる。  
●2008年から取締役副社長に就任。国内の展示会やメーカーなどでの商品仕入れ、販売、広報、楽天店舗を担当する。  
●趣味は、映画の鑑賞など。

## 「仕事後のコーヒーが夫婦円満の秘訣かな」



菅原 裕典  
すがわら・ひろのり  
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら葬儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年エボックせんだい設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事長就任。01年せんだい泉工場放送取締役。01年(株)清月記社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任。

### 小さい時からバレリーナに憧れていました

菅原 島貫さんは仙台のお生まれと聞いておりました。島貫 本店のある青葉区一番町3丁目生まれ育ったのですが、友人からは、よくまともに育ったねと言われます。

菅原 子どものときの遊ぶ場所はいつも街中ですから。島貫 小学校の夏休み前に出るしおりに、子どもだけで盛り場にはいかないようにしましょうと書かれていました。が、盛り場ってどこ、うちの辺りなのかなあと、友人と笑っていました。

菅原 小さいときからバレエを習っていたそうなんです。島貫 母の勧めで4歳から始めました。仙台シテイバレエ研究所では、大学時代から

売店が始めるのは極めて異例だったようです。菅原 こけしを始め、日本の文化や伝統を大切にしたいかなといけません。こけしなんかは、海外に行くときのお土産としてとても喜ばれます。ところで東日本大震災のときは大変だったでしょう。

島貫 震災から10日目くらいで開店できるようになりました。ただ、当店の商品は生活必需品ではないので、生きるのに精一杯なときにこういう店が開けてもいいものかすごく悩みました。でも、最初にいらしたお客様が部屋を明るくしたいと桜の暖簾を買ってくださいました。涙が出るくらい嬉しくて、そのとき店を開けてもいいんだ、人様のお役に立つんだと思いま



島貫さんのご家族。長女奈緒子さんの小学校入学式時

子どもから大人まで教えて、出産まで続けていました。エカテリーナ・マクシモアやセミアカなど、ロシアのパレリーナに憧れていました。好きな演目は、ジゼルや眠れる森の美女です。菅原 御社は明治25年創業ですが、もともと民芸店を営まれていたのですか。

島貫 創業当時は、たばこや菓子を扱う店でした。母の話ですと終戦後、こけしなどの民芸品を扱うようになりました。当社では、仙台や宮城、

東北にこだわった商品を使っています。その技術を使って新しい、生活に合ったものを産みだそうとしています。菅原 それはどのような商品ですか。島貫 東日本大震災前はこけしが売れない時代が続きました。こけしは地震が来る度に倒れて大変だという方が多かったのです。それを逆手に取って、倒れるからこそ使えるという商品を開発しました。

菅原 横浜で特許を取られた会社とコラボをして、明かりこけしという商品を開発しました。普段はこけしとして飾り、地震で倒れたり、手に持った倒すと底部のLEDが自動的に点灯するものです。木の中をくり抜くのは誰にでも出来ることではないので、技術をもった工人さんをお願いして作りました。

菅原 菅原 関東、関西ではこけしブームになっていきます。島貫 東北地方の家にこけしがあるのは当たり前ですが、関東から西の方には新鮮だったのです。こけしは東北独特のもので、木を使ってお椀とかお盆とかを作る木地師さんが、自分の子供のお人



清月記本社で

した。菅原 すごい体験をされましたね。どんな商売も必要なものはないのですか。島貫 商売でも続けていくのは大変ですが、島貫さんにはこのまま街中に住んでいてほしいです。生活していかないと地域間交流がなくなります。先日、ある方から、日本は一流ホテルと同じなんだと言われました。それは、自衛隊の活動を始め、見えないサービスがしっかりとおり、安全だということなのです。仙台も沿岸部は大変ですが、中心部は比較的地震にも強く、安全な都市だと思えます。島貫さんのいまの夢はなんですか。島貫 東北には残さなければならぬ工芸品や民芸品があるので、それを今の人も

東北の工芸品を時代と生活に合わせて変化させていくこと

菅原 震災から10日目くらいで開店できるようになりました。ただ、当店の商品は生活必需品ではないので、生きるのに精一杯なときにこういう店が開けてもいいものかすごく悩みました。でも、最初にいらしたお客様が部屋を明るくしたいと桜の暖簾を買ってくださいました。涙が出るくらい嬉しくて、そのとき店を開けてもいいんだ、人様のお役に立つんだと思いま

菅原 御社では昨年の5月から、小売店では珍しい免税店になりましたね。島貫 短期滞在者でパスポートを持っていらっしゃる方が、本体価格で1万1円以上お買い上げになると免税の手続きができるというものです。デパートや家電量販店などの大型店はやっていますが、当店のようないくつか



10歳の時の発表会で(右から3番目が島貫敦子さん)

使ってもらえるように変化させて、繋いでいくことです。菅原 夫婦円満の秘訣はな

菅原 二人ともお酒を飲めないのです。仕事が終わると、時々一緒に、夜力フエに行きます。これが秘訣かもしれません。菅原 最後に若い女性にメッセージを。島貫 あまり根を詰めずに、自分でないとだめな部分を持つていながら、人に任せるといふバランスが大切だと思えます。子育ても仕事も抱え込まないことです。菅原 ご家族もとてもフレンドリー。ご活躍を期待しております。

1日1組様限定・家族葬専門ホール  
仙台中田葬祭 清月記

地域の皆様のために、より一層のサービスの向上を目指し、清月記グループとしてリニューアルする運びとなりました。つきましては、リニューアルオープンまでの間、ご不便をおかけしますが、清月記グループにて対応させていただきますので、何なりとご相談下さい。

6月20日(金) オープン

株式会社中田葬祭会館 渡辺 仙台市太白区中田5-13-21 ☎022-241-8885

問い合わせは 電話にて承ります。 ☎0800-888-5777

株式会社 清月記 http://www.seigeteki.co.jp/